

## ふくしま学力調査とは

### 目的

児童生徒一人一人の学力の伸びや学習等に対する意識、生活の状況等を把握する調査を実施し、教育及び教育施策等の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るための方策を構築し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

### 対象 学年

小学4・5・6年  
中学1・2年

### 対象 教科

国語  
算数・数学

### 特長

一人一人の児童生徒の「学力の伸び」を経年で測定できるため、エビデンスとして効果的に機能する。

### 調査の仕組み

- 同一児童生徒を継続的に調査する。

令和3年度  
小学校4年



令和4年度  
小学校5年



令和5年度  
小学校6年

- 一つ一つの問題に難易度を設定し、「どのくらい難しい問題を解く力があるか」で学力を捉える。
- 異なる年度で意図的に同一問題を設定するなどして、「学力の伸び」を測定する。そのため、問題は非公開。
- 平均点より高いか低いという他者との比較ではなく、「学力がどのくらい伸びたか」という個人内の比較に主眼を置き、「学力の伸び」を可視化する。
- 質問紙調査によって、「非認知能力」等について調査し、学力との関係を把握する。

各学年ごとのレベルの範囲（白が当該学年のレベルの範囲です）

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	レベル	レベル(3分割)	数値
レベル12							レベル12	12-A	36
								12-B	35
								12-C	34
レベル11							レベル11	11-A	33
								11-B	32
								11-C	31
レベル10							レベル10	10-A	30
								10-B	29
								10-C	28
レベル9							レベル9	9-A	27
								9-B	26
								9-C	25
レベル8							レベル8	8-A	24
								8-B	23
								8-C	22
レベル7							レベル7	7-A	21
								7-B	20
								7-C	19
レベル6							レベル6	6-A	18
								6-B	17
								6-C	16

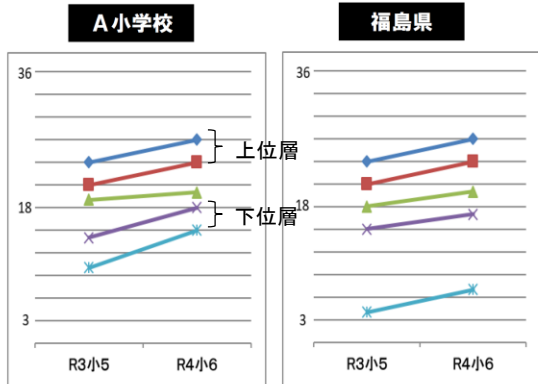
学力を数値化することで、視覚的に「学力の伸び」を把握できる

# 【各学校の取組事例と「分析支援ツール」】

## 学力の伸びを引き出した学校の取組事例

### A小学校の例【国語科】

◎学力の伸びの状況



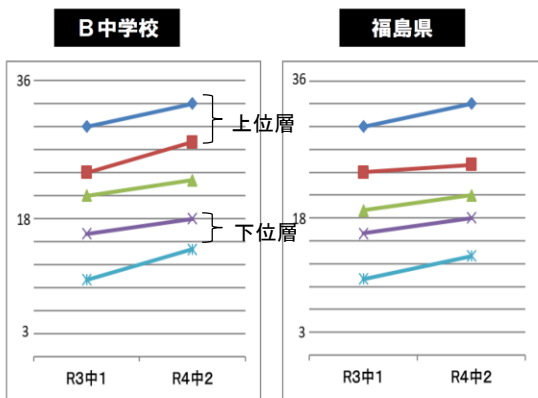
- 最も学力が低い児童が属する学力レベルが県と比べて大幅に高い。
- 特に下位層の学力が大きく伸びている。

#### ◎伸びを引き出した効果的な取組 新聞記事の活用

書くことの基礎的・基本的な力を身に付けさせるために、興味のある新聞記事を選び、記事の内容の要約と記事に対する感想や意見を、2段落構成でまとめる課題に継続的に取り組んだ。

### B中学校の例【数学科】

◎学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する生徒が属する学力レベルと最も学力が低い生徒が属する学力レベルが県と比べて大きく上がっている。

#### ◎伸びを引き出した効果的な取組

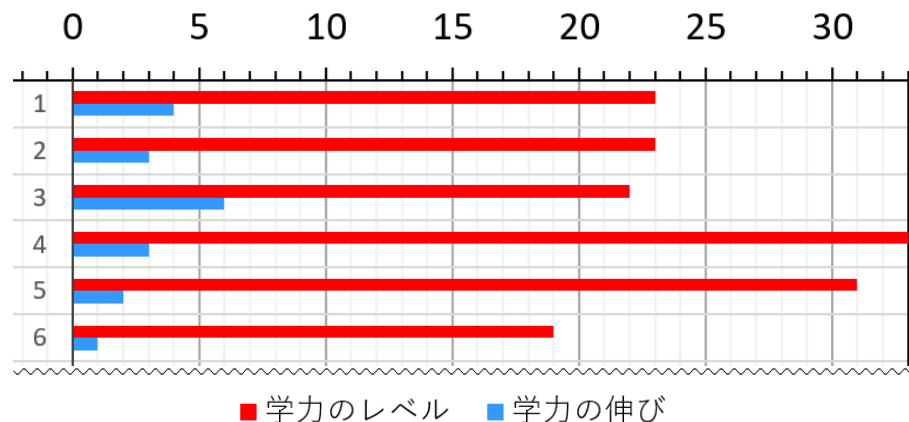
##### 考えを共有・吟味するグループ学習

授業の早い段階で、生徒同士のグループ学習を設定し、「どうやるの?」ではなく「どういうこと?」と考えを聴き合うことで、解決方法を直接教えてもらうのではなく、問題の意味や本質を理解しながら、協働的に解決できるようにした。

## 義務教育課研修支援チーム作成「分析支援ツール」

### C学級の例

#### 学力のレベルと学力の伸び（国語）



- 赤が「学力のレベル」、青が「学力の伸び」を表している。縦軸の1～6の数字は出席番号を示し、一人一人の子どもを表している。
- 一般的な調査では、学力のレベルに目が行きがちだが、学力の伸びに着目すると、一人一人の成長が見えてくる。そこを称賛し、ほめる。  
(例) 3番の子どもは、学力の伸びが「6」であり、大きく学力を伸ばして「22」に達したことが分かる。
- 「分析支援ツール」は、一人一人の学力の伸びを可視化し、適切な個別支援、授業改善にいかすことができるツールとなっており、各学校での活用が進んでいる。

第7次福島県総合教育計画  
 【学びの変革推進プラン】  
 施策1「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する  
 ～エビデンス（根拠）に基づいた教育施策の推進～

ふくしま学力調査を  
 エビデンスとして活用し、  
 各方面から学校をサポート

**大学との連携**  
 宮城教育大学教職大学院教授田端健人氏  
 を代表とする研究チーム

- 「ふくしま学力調査」の結果データを  
 基にした分析等についての助言
- 各種会議における講演、助言

**ふくしま学力調査研究委員会**

県内大学教授、教育長会・校長会代表者、  
 学力調査先行実施教育委員会、保護者代  
 表、義務教育課で構成

- 「ふくしま学力調査」を基に、本県の  
 教育施策の改善や学校における教育活  
 動の改善のための方策等を提言

**各学校**

- 一人一人の児童生徒を分析
- エビデンスに基づく授業改善

**個別最適化された学びの実現**

**義務教育課研修支援チーム**

- 大学との連携による「分析  
 支援ツール」の開発
- 算数・数学の学力向上のた  
 めの学校訪問支援

**義務教育課学力向上チーム**

- 調査実施の全体総括・各種  
 会議の運営・連絡調整等
- 埼玉県との連携
- 「分析報告書」の作成
- 「学力の伸びを引き出した  
 学校の取組事例集」の作成

**県学力向上対策会議**

県内59市町村教育委員会  
 教育事務所 教育センター 義務教育課

- 「全国学力・学習状況調査」と「ふくしま学力調査」の  
 結果分析を基に、授業の質的改善に向けた方策を協議
- 実践事例の発表
- 大学教授等の指導助言

**(予定) 学力向上支援アドバイザー**

県内10名（退職校長等）

- 算数・数学を中心とした教員の授業力向上
- 子ども一人一人の課題に応じた指導を充実させるための  
 支援
- 市町村教育委員会・教育事務所・義務教育課研修支援  
 チームとの連携